

制度通

十三

74

673

13



門 7
673
13

制度通卷十三

伊藤長胤 輯

▲五刑ノ事

古ハ聖王仁義禮樂ヲ以テ天下ヲ化動シタニヒテ天下太平ナリ然レトモアタノ人ノ中ニハ惡逆無道ノモノアリテ人ノ害ヲナス之ヲ除カザレバ萬民ノ難義ヲ致スニ因リテ刑罰アリテ之ヲ輔ク故ニ堯ノ時皋陶ヲ命シテ士官トシテ之ニ告テタラフ汝作士明于五刑以弼五教期于予治刑期

制度通

卷十三

一

于無刑民協于中ト此刑罰ハジテ經ニ見ハルモノナリ
 五刑ノ名目舜典ニミエズ周書ノ呂刑ニ五刑不簡正于五
 罰ト云々墨劓剕宮大辟ヲアグ先儒コレヲ以テ舜典ヲ注
 ス墨トハ入墨ヲスルト劓トハ鼻ヲキルコト剕トハ足ヲキルコト又
 刑ト云宮トハ淫刑ナリ男子ハ勢ヲ断ツ女子ハ宮中ニ幽閉
 スルナリ大辟トハ死罪ナリ周禮ノ司刑ニ墨罪劓罪剕罪
 殺ト云リ同キコトナリサテ五刑各罰アリ罰ト云ハ罪アルモノ
 科代ニ財ヲ出スコトナリ之ヲ五罰ト云周禮ノ大司寇ニ又
 ム以五刑糾萬民ト野刑軍刑鄉刑官刑國刑ノ五ツヲ

アケ注ニ刑亦法也糾猶察異之ト云五刑ハ肉刑ノ五刑ト異ナリ
 ○周禮ノ掌戮ニ云斬殺賊謀而搏之上注ニ斬以鈇鉞若今
 要斬也殺以刀刃若今棄市也トイツモ今ノ斬罪ノコトナリ
 搏ハ又搏ニ作ル立音搏反磔也ト云々コレハ今ノハリツケノコトナリ
 又周禮ニ焚ト云コトアリ注ニ易ノ焚如死如ヲ引ク火アブ
 リノコトナリ又辜ト云コトアリ注ニ辜之言枯也謂磔之トコ
 レモハリツケノコトナリ又肆ト云コトアリ注ニ車也陳也トアリ論
 語ニモ肆諸市朝トアリ死骸ヲヤラスコトナリイツレモ周禮
 ニ詳ナリ考フヘシマ外輶裂烹等ノコト左傳漢書等ニ見

ハルイツモ春秋以来戦國ニ及フテ一時ノ濫刑ニシテ名例ノ
定リタル法トハ三ハガ

三	代	五	刑	圖
墨	劓	剕	宮	大辟

○秦ノ世ニ至リテ刑罰イヨク苛刺ナリ初メ諸侯タル時ヨリ文
公ノ世ニ三族ヲ誅スル法ハジシテオコレリ孝公ノ世ニ商鞅ヲ用法

令キビシク始メ皇ノ天下ニイタリテ梟首車列ス體解等刑
ヲ用ヒ又鬼薪城旦等ノ罰オコレリ鬼薪トハ罪アルモノヲ
科代ニ宗廟ノ薪ヲトラシムコトナリ城旦春トハアシタニ起
テ城ノクレンヲ役ニスルコト婦人ハ米ツクコトヲ科代ニサスルナリ
漢ノ世ニテモコノ法ヲ承行フ

○漢ノ高祖ノ世ニ及ニテ秦ノ苛法ヲ除キテ約法ニ三章ニキ
ハシラレ曰殺人者死傷人及盜抵罪トアリシカドモ族誅等ノ法
ツノマ、秦ノゴトクニシテサノ三刑名ノ品ヲ改メラルコト見ヘス
其後三章ノ法不足禦奸ニヨリテ蕭何ニ命シテ秦ノ法

ヲ拾ヒテ律九章ヲ作ラシ叔孫通是ヲ益シテ十八篇
ヲ作ル刑名ノ品是ニオイト定レリ

○文帝ノ時ニ齊大倉令淳于公ト云モノ罪ヲ犯シテ刑ニテタ
ルツノ女子ニ緹縈ト云モノアリテ上書ニテ父ノ死ニ代ラシコトヲ
願フ文帝是ヲ憐ニテ肉刑ヲ除カル律ヲ定メテ諸ノ髡スベ
キモノヲ宥シテ城旦舂トシ黥スベキモノヲ髡鉗シテ城旦舂
トシ劓スベキモノヲ笞二百左ノ趾ヲ斬ルヘキモノヲ笞五百右ノ
趾ヲ斬ルヘキモノ並ニ殺ス人自告ルモノナドヲ皆棄市スソノカミ
外ニ輕刑ノ名アリテ實ハ死罪ニイタルユヘニ景帝ノ世ニイダ

リテ更ニ律ヲ改メ定メテ笞五百ヲ減シテ二百トシ三百ヲ二百
トス後又三百ヲ二百ニシ二百ヲ百ニ減シテ筭ノ令ヲ定長
サ五尺ニテ本口一寸末ノ薄サ五分ニテツノ節ヲ削リ平
ゲテ笞ウツトキハ人ノ臀ヲウツ是ヨリサキハ人ノ背ヲ笞ウ
ツナリ後世ニイタルニテ笞杖ノ刑ハコノ時ノ數ニヨリテ増損
セリ武帝ノ世ニイタリテ律令三百五十九章アリ其後兩
漢ノ間刑名ノ増損サノミカハルコトナシ

○三國ノ時ニ及テハ馬融鄭玄等律ノ章句アリテ斷罪ノ
用ユベキモノ二萬六千二百七十二條ニ及ヘリ明帝ノ時ニ

陳群等ニ命シテ舊科ヲケツリ約カニテ魏ノ法制ヲ定メ律十、八篇ヲ作ル又古義ニヨリテ五刑ヲ制ス死刑髡刑完刑作刑贖刑トイフ

○北齊ノ昭成帝河清中ニ齊律ヲ作ル凡十二篇アリ大抵魏晉ノ故事ヲ採用ヒラル其刑名五アリ一曰死二曰流刑三曰刑罪即耐罪ナリ四曰鞭五曰杖ト又重罪十條シテ其後世二十惡ト云ハコレニモトツク後周ノ律二十五篇其刑五等杖徒鞭流死ナリ死刑ニ又五等アリテ磔絞斬梟裂ト云コノ外世々贖刑ノ差アリテ科代ニ金ヲイダス是ヲ罰

金ト云又贖銅トモ云何レモ前代ノ法ヲ損益シテ亦々異同アリ隋唐以來ノ法モ又コレヨリイダスルモノナリ

磔古ヘ磔ニ作ル本禮記ノ文王世子ノ篇ニ出ツ曰公族其有^レ死罪則磔于甸人皇氏曰如懸^カ樂器之磔也集說ニ懸^テ絞^ス殺^ス之^也トイヘリ絞モレノコロスコトナリ磔トノ違ヒハツラザルバカリナリ同レ死罪ニ絞斬ヲハカツコト北齊ノ世ヨリハヅリテ隋唐以來明マデコレニヨル通典ニ斬刑殊^ハ身首^ニ其次絞刑^ニ死而不殊^セ支體ヲ切ハナスト全クスルトノ差ナリ磔刑ハ又カルキト見ヘタリ

○隋ノ時ニ文帝高煥等ラシテ新律ヲ定ムル十二卷五百條アリソノ刑名五アリ一ニ死刑二等絞斬ニ流刑三等千里ヨリ二千里ハ三年ニイタルニ徒刑五等一年ヨリ三年ニイタル四ニ杖刑五等十ヨリ五十ニイタル是ヲ笞杖徒流死ノ五刑ト云コノ時ニ前代ノ梟首輓裂ノ法ヲ除キ流徒ノ刑モ皆減シテ輕キニシタカフ又十惡ノ條ヲ置キ議請減贖當免ノ法アリ大抵北齊ノ法制ヲ採リ用ヒテ少少損益アリ煬帝ノ世ニイタリテ又刑ヲ元クス律十八篇改メテ是ヲ大業律ト云然レトモ大業ノ末ニ及シテ刑法又

嚴峻ニシテ天下大ニミタル

○後世五刑ノ名目コノ時ニサダメリ徒トイフハ疏議ニ徒者奴也蓋奴辱之トイヘリ周禮ニ其奴男子入于罪隸任之以事實之圜土而教之量其罪之輕重有年數而捨之是ナリ男ノ罪アルモノヲソノ科代ニ處シソノオキテ普請細工等ヲサセ罪ノ輕重ニヨリテ年數アルコトナリ漢ノ時ニ城旦舂鬼薪白粲隸臣妾後漢ノ輸作左校等曹魏ノ作刑隋唐ノ居作配五代宋ノ配役刺配十ト名ハカレドモ何レ徒罪ノコトナリコレヲ徒トイフコト五代晉ノ天福ノ比ヨリハヒマリテ

ハレ黒ラシテ配スルヨリテ是ヲ刺配トイフ宋ヨリ以來モコレアリテ明ニ刺字ト云又漢ノ髡完彫トイフモ髡髮ラソリケツルコトナレドモソノ後ニ又城旦等ノ刑ヲ加ヘ役ニ使フコトテ徒刑ノ類ナリ

○唐ノ高祖開スリテ苛政ヲ除キ約法十二條ヲ定ムラル武徳四年ニ律令ヲアラタ多撰マル五刑ノ自隋ノ制ヨレリ

唐	
笞刑五	一十 贖銅 一斤
杖刑五	六十 贖銅 六斤
徒刑五	一年 贖銅 十斤
流刑三	二千里 贖銅 八十斤
死刑二	絞 贖銅 一百斤

五	
徒刑五	一年 贖銅 十斤
流刑三	二千里 贖銅 八十斤
死刑二	絞 贖銅 一百斤

○唐ノ法立春ヨリ秋カミテノ内ハ死罪ヲ行ハズ是ハイニシヨリノ法ニテ唐ハシルニアラズ又囚ヲ拷問スルコトハ三度ニ過キズ毎訊相サルト二十日ヨリ二十日ノ間ヲオキテ拷問スルコトナリ

○唐ノ時諸杖ノ制節目ヲ削リイツレモ三尺五寸ナリソノ内
 訊囚杖ハ大頭三分三厘小頭二分二厘常行杖ハ大頭二
 分七厘笞杖ハ大頭二分小頭一分半ヲ外扭杖等ノ制ハ及分
 本朝之制凡制五罪其一曰笞罪其二曰杖罪其
 三曰徒罪其四曰流罪其五曰死罪死罪二等絞
 斬贖銅各有差

○名例律ヲスル所刑名ノ次第カクノゴトシ全ク唐ノ制ニヨリテ
 少々損益アリ是ヲ五刑トイハズシテ五罪ト云又三流ニ死
 ノ贖銅ノレナ唐ノ法ヨリハヤ、オモシ各コレヲ下ニアラス

本	朝	五	罪	圖
笞罪五等	一十	贖銅	二十	絞罪
三十	贖銅	四十	贖銅	百斤
四十	贖銅	五十	贖銅	百斤
杖罪五等	六十	贖銅	七十	斬罪
八十	贖銅	九十	贖銅	百斤
徒罪五等	一年	贖銅	二年	贖銅
二年	贖銅	三年	贖銅	百斤
流罪三等	近流	贖銅	中流	贖銅
遠流	贖銅	贖銅	贖銅	百斤
死罪二等	絞罪	贖銅	斬罪	贖銅
	百斤	贖銅	百斤	百斤

刑律通

卷十三

七

右 本朝五罪ノ等カクゴトシトク唐ノ法ニヨリソノ内
 贖銅ノレナ流罪死罪ノニツハ唐ヨリヨホドオモシ具六本
 朝イニレヨリ國ニ金穀豐饒ナルヨリテナルヘシ苛刺ニレテ唐
 ヨリオモクセラルニアルニシキナリ又罪一等ヲ加減ストイフ答
 罪ナレハ十ヨリ五十マテ杖罪ナレハ六十ヨリ百マテ各十ツラ一
 等トス徒流死モ同レトナリ徒罪ハ年數ヲ以テ等ヲナス死
 罪ハ絞一等斬一等ナリイツレモ上ニ攀ル通リナリ絞罪斬ヨ
 リ輕キワケハ絞罪ハ時ヲ待テコロシ死罪ハシカラズ時トイフ立
 春ヨリ秋分マデノ内ハ二年ノ内陽氣發生ノ時節ナルニ玉

者天道ニリトリテ人ヲ刑ヲラレトナシ故ニ 本朝獄
 令云自立春至秋分不得奏決死刑ト是ナリカモ重
 キ罪科ハソノ時ヲ待タズレテ刑ス是死罪ナリ絞罪イツニ
 テモソノ時ヲ待チ合セテ春夏ノ内ニハ刑セズソノ内モ恩詔
 アリテ赦ニ遇ハ徒流ニ配マ故ニ絞罪ヲカレトス牛リ法曹至
 要鈔ニ詳ナリ考フヘシ

○本朝笞杖ノ制イツレモ節目ヲ削リサリテ長サ三尺五寸ニ
 ツクルソノ内訊囚杖並ニ常行杖ハ大頭徑四分小頭三分
 ナリ笞杖ハ大頭三分小頭二分ナリ訊囚杖ハ罪人ヲ拷問

杖ノリ笞杖ハ笞ニ用ニ杖ナリ笞ト杖トニアラスヘテ笞ト杖トノ聲ヲ打ツ栲問ノ時ニ背ト聲ト分ケテ是ヲ打ツイツモ令ニ詳カナリ

○五代ノ世刑名ノ事カハユトシテ梁ノ時ニ新ニ格式律令ヲ定メテ頒下ニテ施行フ周ノ顯德四年侍御史張湜等ニ命メテ刑統二十一卷ヲ作シ刑名ノ事唐法ニ因テ沿革アリトシタリ
○宋ハシテ大理寺實儀刑統三十卷ヲ重定ス刑名亦前代ニ因テ損益アリ仁宗ノ時三荆湖ニ人ヲ殺シテ鬼ヲミシモノアリ凌持シテ斬ル文獻通考ニシテ擧ケテ注ニ凌遲ニ

作馬氏曰凌遲者先斬其支體次斷其吭國朝之極法也ト前代ニハコレヲ吊ト云唐ノ安祿山ノ亂ニ顏果卿ヲ吊スト云リ字彙ニ馬古尾切音寡說文剔人肉而置其骨也トシカレドモ定リタル刑名ニアラズ

○元ノ刑名大樣唐宋ノ制ニ因リ英宗ノ時宰相儒臣ニ命シ前代ノ書ニ因テ損益ヲ加ヘ大元通制ト云リノ書ノ大綱三アリ一ニ詔制ニ三條格ニ三斷例大槩世祖已來ノ法制事例ヲトリテ書シ成スリノ五刑ノ目凡七下ヨリ五十七至ニコレヲ笞刑ト云凡六十セヨリ一百七ニ至ルコレヲ杖刑ト云徒

法ノ年數ハ杖ノ數ニ因テ加減アリ流刑ハ南人ハ北地ニウツシ
 北人ハ南方ニウツス死刑ハ則斬アリテ絞ナシ惡逆ノ極モハ
 又凌遲ノ法アリイツモ續通考ニ詳ナリ又丘瓊山曰自
 隋唐以來除去前代慘刻之刑死罪惟有絞斬二
 者至元人又加之以凌遲處死之法焉所謂凌遲
 處死即前代所謂剜也前代雖於法外有用之者
 然不著于刑書著于刑書始於元焉

○元ノ時答刑七下ヨリ五十七ニ至ルト云コトハ初刑名ヲ定メ
 ラルトキニ杖罪ステニ定リテ後曰天饒他トク一トク下地饒他トク一トク下
 我饒他トク一トク下ト云テ一罪ノ上ニテ三ツツ・ユルシクフアリハ
 天ノユルシハ地ノ北シハ天子ノユルシト云コト見ヘタリシカ
 ルニ因テ十打ツヘキモノヲ三ツヘラシテ七下トシ六十ウツ
 ヘキモノヲ三ツヘラシテ五十セトスルナリ後アヤリテセノ上ニ
 反テ十ヲ加フルコトアリコレヲ正サル是又續通考ニツブサナ
 リ凌遲ヲ刑書ニ著スハ不仁ナリトイヘトモ杖ヲ三下ニ
 スハ元人ノ仁ナリ

○明ノ時國家ノ執法モノ刑部都察院大理寺ナリ
 シ三法司ト云都察院ハ前代ノ御史其基ナリコノ三司ニテ

天下ノ刑罰ヲサバクコノ外五刑並ニ十惡ハ議等ノコト
 イツレモ前代ニ因テ損益アリソノ内ニ徒刑流刑ニモ又杖
 罪ヲ加フコト唐トコトナリ丘氏衍義補ニ云宋因唐制每
 流各加以杖而又配役則是五刑之中兼用徒流杖
 三者矣本朝流罪惟有杖而不配役比宋為輕矣
 ○又五刑ノ外ニ遷徙トイフコトアリテ郷土ヲ遷離スルコト
 一千里ノ外ヲイフ大明律例ニ詳ナリ

明	答刑五	一十	二十	三十
	杖刑五	六十	七十	八十
		九十	一百	

五	徒刑五	一年杖六十	一年半杖七十	二年杖八十
	流刑三	二千里杖一百	二千五百里杖一百	
	死刑二	絞全其肢體	斬身首異處	

○續文獻通考ニ云死刑最重曰凌遲徙流之重曰遷
 徙曰充軍ト云々又明ノ時贖ノ法唐トコトナリ在京在
 外ニテ其差オナレカラス事シケレバアゲズソノ内無カ有カ
 稍有カトエテ人ノ身上貧富ノ差ニヨリテ輕重ノ別アリ
 ○又答杖ノ法答トイフハ小荊ヲ以テコレヲ作ル大頭徑二
 分七厘小頭徑一分七厘杖トイフハ大荊杖ヲ以テ作ル

大頭徑三分二厘イツレモ節目ヲ削リサリ長サ二尺五寸ナリ又訊杖アリ是ハ拷問スル時ニ用ユ荆杖ヲ以テ作り大頭徑四分五厘小頭徑三分五厘是モ長サ三尺五寸ナリイツレモ囚人ノ臀腿ヲ打ツ答杖トモ小頭ニテ打ツナリ

杖	大頭徑三分二厘	小頭徑一分二厘	長三尺五寸
訊杖	大頭徑四分五厘	小頭徑三分五厘	長三尺五寸
答杖	大頭徑四分五厘	小頭徑三分五厘	長三尺五寸

▲十惡並ニ本朝ハ唐ノ事

○周禮ニ五刑九伐ノ各アリテ不孝不睦造言亂民ノ刑アリ内外亂鳥獸行則伐等ノ法サズクニテ惡逆ヲ誅シ不道ヲコロスハ古ヘヨリレカリソノチ漢ヨリコノカタソノ法大畧相ヨレリ北齊ノ昭成帝河清年中ニ律ヲ定メコノ時ニ重罪十條ヲ列セリ一ニ反逆二ニ大逆三ニ叛四ニ降五ニ惡逆六ニ不道七ニ不敬八ニ不孝九ニ不義十ニ亂ヲ十條ヲオカスモノハ議論贖ノ限ニアラズコレヨリ後唐宋明ニイタルデ必コレヲ律ノ本ニニアラハス北周ニ至リテ

十惡ノ目ヲ立テズシテ惡逆大不敬不道不孝不義内亂ノ罪ヲ重ス隋ノ文帝ノ時又十惡ノ條ヲ置ケリ齊ノ制トヤコトナリ唐全ク隋ニ見故ニ丘瓊山之十惡之名非古也起於齊而著於隋唐因之ト

唐

- 一曰謀反謂謀危社稷
- 二曰謀大逆謂謀毀宗廟山陵及宮闕
- 三曰謀叛謂謀背國從偽
- 四曰惡逆謂毆及謀殺祖父母父母殺伯叔父母姑兄弟外祖父母夫夫之祖父母父母

律

- 五曰不道謂殺一家非死罪三人及支解人造畜蠱毒厭魅
- 六曰大不敬謂盜大祀神御之物乘輿服御物盜及偽造御宝合和御藥誤不如本方及封題誤若造御膳誤犯食禁御車舟船不牢固指斥乘輿情理切害及對捍制使而無人臣之禮
- 七曰不孝謂告言詛罵祖父母父母及祖父

惡

圖

母父母在別籍異財若供養有闕居父母
 喪身自嫁娶若作樂釋服從吉聞祖父母
 父母喪匿不舉哀詐稱祖父母父母死
 八日不睦謂謀殺及賣總麻以上親毆告夫
 及大功以上尊長小功尊屬
 九日不義謂殺本部五品以上官長及聞夫喪
 不舉哀若作樂釋服從吉及改嫁
 十日內亂謂姦小功以上親父祖妾及與和者

本朝之制置八唐之刑

本

朝 八 唐 圖

一曰謀反
 二曰謀大逆
 三曰謀叛
 四曰惡逆
 五曰不道
 六曰大不敬
 七曰不孝
 八曰不義

本朝ノ制全ク唐ノ法ニヨリ律ニノスル處ノ注文少ク、異同アリアハセ考フヘシクノ内隋唐六十條ニ立テ、是ヲ十惡ト云 本朝ニコレヲ損益シテ減シテハケ條トシ是ヲ八虐ト云 先王ノ時漢唐ノ法ヲ取り用ヒテ時世ニシタガヒ水ニヨリテ斟酌増損シタラノ意コレニヨリテミルベシクノ内唐ノ律不睦ノ條 本朝コレヲ除クツノ條目ハ不道ノ中ニアセリ又唐律内亂ノ條モノゾキテツノ條目ヲ畧シテ不孝中ニコレヲイルツノ異同オノツカラミルヘシ

▲八議並ニ 本朝六議ノ事

○八議ノト本周禮ヨリ出ツ是ヲ八辟ト云或ハ天子ニ親アル人或ハ爵アルモノ或ハ賢才ナルモノ或ハ功アルモノ罪アル時ニ常ノ人ナレハ定リタ刑罰ニ逢フヘキヲセヤシテ宥免セラルコトナリ

○周禮小司寇以八辟兼邦法附刑罰一曰議親之辟二曰議故之辟三曰議賢之辟四曰議能之辟五曰議功之辟六曰議貴之辟七曰議勤之辟八曰議賔之辟ト云八辟ノワケカラノゴトハ辟トハ注ニ法ナリト解スハケ條ノ法ト云コトナリツノ内議賔ト云コトハ注ニ云謂所不臣者三恪

二代之後典ト

唐律八議圖

- 一曰議親謂皇帝祖免以上親及太皇太后皇太后總麻以上親皇后小功以上親
- 二曰議故謂故舊
- 三曰議賢謂有大德行
- 四曰議能謂有大才業
- 五曰議功謂有大功勳
- 六曰議貴謂職事官三品以上散官二品以上
- 七曰議勤謂有大勤勞
- 八曰議宥謂承先代之後為國宥者

職事官散官トイフ唐令ニ有執掌者為職事官無執掌者為散官ト云々又國宥トイフハ唐ノ時アリテハ北周ノ子孫介公隋ノ子孫鄴公ヲ姬周ノ三恪ニ準シテ國宥トスナリ

本朝之制置六議

本朝六議

- 一曰議親謂皇親及皇帝五等以上親及太皇太后皇太后四等以上親皇后三等以上親
- 二曰議故謂故舊
- 三曰議賢謂有大德行
- 四曰議能謂有大才能

圖

五曰議功詔有大功勳
六曰議貴謂三位以上

本朝ノ制全ク唐ノ制ヨリテフノ内ニ勤賓ノニケ條ヲケ
リテ是ヲ六議ト云議勤ノ一條ハ議功ノ條ト相通スユヘ
是ヲ削ラレト見タリ又議賓ノ一條ハ本朝イニシヨリ一姓
ニシテ前代勝國ノ子孫ナキユヘ又是ヲ除カル予向ニ今ヲ讀
六議ノ事アリテフノ事ヲ詳ニモ本朝律並ニ法曹至要鈔ヲ
三ニ具サニテ目ヲアラハキリ先王周室唐家ノ法ヲ斟酌シタ
ク精意ツカニ遺文ニヨリテフノ事ヲシテ夕貴フベキナラスヤ

▲議請減贖官當除免ノ事

(一) 律令ニ議請減贖官當除免ト云コトアリコノ事唐律ニ
詳ナリ律ノ第二卷名例ノ中ニ議ノ章請ノ命減ノ章贖ノ
章ト云段アリ議ト云ハ八議ノ人死罪ヲ犯ストキハ其罪狀
並ニ應^キ議ノワケヲ條録シテ是ヲ奏聞シ都座ニテ集議
議定リタル上奏裁シテ上ノ御サバキヲ待ツ是ヲ議ト云律
ノ注ニ云議者原情議罪稱定刑之律而不正決之豈
ナリ請トハ太子ノ妃ノ大功以上ノ親又ハ八議ノ人ノ期以上
ノ親モシクハ五品以上死罪ヲ犯シタルモノハカクノコトクニ決

断スベキヨシヲ上請ス是ヲ請ト云注ニ云請謂條其所犯及
應請之狀正其刑名別奏請ト是ナリコノニツトモ流罪
一等ヲ減スルカ又ハ十惡ヲ犯スモノハ議請ニオヨズ減ト云ハ請
フコトヲ得ルモノ、親類流罪以下ハ各一等ヲ減スルノ例ニ從フ
是ヲ減ト云贖ト云ハ凡議請減スベキモノ、親類流罪以下ハ
財ヲアゲテ罪ヲアガナフコトヲ聽ス是ヲ贖ト云コノニツハ上へ申
上ルコトハナキト見ヘタリ是ヲアセテ議請減贖ト云唐律ニツ
トビラカナリ文シゲシハ具サニアゲスコノ次ニ官當除免又免所
居官ト云コトアリ

○官當ノコトハ杜氏通典ヲ考フルニ陳ノ武帝ノ時ヨリ
ハレニト見ヘタリ通典ニ云五歲刑若有官准當二年
餘並居作其三歲刑若有官准當二年餘一年贖
ト陳ノ下ニ是ヲアラハセリ此ハ無官ノモノ罪ヲ犯シテ五歲
ノ刑ニ逢ハ法ノ通りサダシテ五年ノ役ヲツトムナリモシ官位
アルモノコノ刑ニ逢フコトアレハ官ヲ取アゲテ二年分ノ代リトシ
ノコリ三年ハ法ノゴトクニツトムナリ何レモ居作ニ後世ノ徒
罪ナリ隋ノ時ニ及シテ是ヲ官當ト云通典隋ノ下ニ云犯法私
罪以官當徒者五品以上官當徒二年九品以上官當

徒一年當流者三流同皆比徒三年之是なり官位アモ
ノ官ヲ解テ流罪徒罪代リニスルコトヲ當ト云是ニテスルベシ

○唐律ニ云諸犯私罪以官當徒者五品以上一官當
徒二年九品以上一官當徒一年若犯公罪者各
加一年當以官當流者三流同比徒四年其有二
官先以高者當次以勲官當行守者各以本品當
仍各解見任若有餘罪及更犯者聽以歷任之官
當其流內官而任流外職犯罪以流內官當及贖
徒一年者各解流外任ト唐ノ世官當ノ法カクハトシ私

罪トハ私ニ自ラ犯シ法ヲ枉ゲイヅル等ノ罪ライフハ公罪トハ情ニ私
曲ナケドモ法式ニ違フライフ又ハ公坐トモ云ニ官トハ職事官散
官衛官ヲ同ク一官トス勲官ヲ又一官トスルナリ

○除名ハ畧シテ又除トモ云除拜除目ノ除トコトナリ全ク官位ヲ取
アゲテ庶人トスルコトナリ唐律ニ云除名者官爵悉除課役從
本色ト是ナリ

○免官又免トモ云律ノ注ニ云謂ニ官並免ト免所居官ハ律ノ
注ニ云謂免所居之一官トコトナク議ニクハシクコレヲアラハセリ
ツノ内免所居官トイフ免官ト云ヨリカシ大抵官ヲ取アゲテノ

コリタル官ヲ帶タルモノナリ。

右ノ内議請減贖ノコトハイニヒヨリ是アリトイヘトモ是ラ次
第ニテ條目ヲ立ルコトハ隋ノ時ハジリテ唐コレニシタカフ文
獻通考ニ云隋有議請減贖當免之法唐因之トクノ
後年數ヲ經テ罪ヲユキテ官位ニ任スルコト又差アリ唐律ノ
文ヲ下ニ掣ク

○唐律云諸除名者官爵悉除課役從本色六載之後聽叙依出身法○免官者三載之後降先品二等叙免所居官及官當者期年之後降先品一等叙

本朝之制凡斷罪有議有請有減有贖其有官者有官當有免官有免所居官有除名

コノ法全ク唐ノ制ヨリ議ト云ハ六議ノコトナリ請ト云ハ上
へ奏請シテ天裁ヲウカフコトナリ減ト云ハ罪ヲ減スルコト

本朝名例律ニ云稱減者就輕死ト是ナリ贖ト云ハ議
請減スベキモノ親類流以下ノ罪ヲオカストキハソノ科代ニ銅
シイダスライフ刑部式ニ云絞斬ニ死贖銅各二百斤ト是ナ
リ又銅ナキトキハ錢ヲ取ル式ニ又云贖罪無銅准價徵錢
ト是ヲアハセテ議請減贖ト云今ノ内處ニコノコトアリソノ委

細ノケ本朝律ニラスコト唐律ト同シ

○官當ノコト唐ト同シ官人徒罪ヲオカシタル人ハ其カワリニ官ヲ
 取アケコトナリ律文ヲ下ニテ
 本朝名例律云犯私罪以
 官當徒者一品以下三位以上一官當徒三年五位以上
 以一官當徒二年六位以下以一官當徒一年若犯公罪者
 各加一年當其有二官謂官位為一官勳位為一官行守
 者各以考本位當仍各解見任若有餘罪及更犯者
 聽以歷任之官當

右ノケ唐律文ト全クコトナラズ又除名免官等ノコト且モ

唐トコトナラズ是又文レケニハレサズ至要鈔ノ文手短カニキコ
 ムニヨリテ是ヲ左ニシル

○法曹至要鈔ニ犯重科之身有職位之時隨罪法
 之所指辭退其職位者也即其辭退之差有四

一者官當

注典名例律同

二者免所居官

先解退所居之一官

三者免官

先解退所居官位勳位

四者除名

官位勳位悉除課役從本色

○續日本後紀十六卷承和十三年參議左大辨正躬王等

贖銅ノ下ニ仍准所犯以所帶一官當徒二年其餘如半
年徒贖銅如件ト云々官當除免ノコト是ニテアキラカキソ
ノ上ニテ除名ノ人ハ官職位階勲トモ取アゲラレテ庶人トナル六
年ノ後ニ及テ官位ニ叙セラル免官ノモノハ三年ノ後先位ニ
等ヲ降シテ叙セラル免所居官並ニ官當ノモノハ一年スキテ先
位一等ヲ降シテ叙セラルソノ詳ナルコト又唐トオナシ

○五代宋朝刑名ノミト全ク唐律ヲ用ユ少ク沿革アルベキト
モ舉ルニ及ハズ明ニ至リテ官當ノ事見アタラズ

▲大赦常赦曲赦ノ事

○赦ノトイヒシヘヨコアリ書經舜典ニ云青以火肆赦トコレ赦
ヨリテオユトコ早リ青過也ト訓シテ人ノアヤニチナリ凶災害也
ト訓シテ人ノフシアハセニテ罪ニ入ルコトナリコノニツハ刑ニアフベキコ
トアレハコシテ宥免ヌ又周禮司刺ノ職ニ宥三赦ノ法
アリ三宥トハ一ニ不識ニ過失ニ遺忘ニイフニ赦トハ一ニ幼
弱ニ老耄ニ三意思ライフコレ等ノ人ハ罪アリトイヘトモユレ
ナダニナリ又周書呂刑ノ篇ニ五刑之疑有赦五罰之疑有
赦トイヘリ是ハ何トナレニ刑罰ノサバキカタキコトヲ宥免シテカロ

ク行ハルコトキリイハモ刑罰ノ定リタル上ニテノ憐愍ナリ

三 不識

宥 過失

圖 遺忘

三 幼弱

赦 老耄

圖 意思

○秦漢ヨリマカタイハ元赦トイフコトハ罪ノ輕重情ノ淺深ニカニテ

「同ニ赦宥スルヲ云馬端臨オモラフ管仲カ言ニ赦者小利而

大害者也ト又楚人陶朱公カ長男ニ告テ曰王且赦トイフニヨ

リテニハ春秋戰國ノ時カヨリスデニ大赦ノ法アリトイヘリ然レド

モ春秋ノ本ノ文ニモ又肆大宥トイフコトアリムカレヨリアルト見ヘタリ

○秦漢ノカタ世ニ國家ノ大事即位改元立皇后立太子帝崩

元服封禪郊祀等ノ時節並ニ日食地震火災靈異之甘

露降ル等ノ祥瑞以異又ハ征伐事オハル時ナド大赦行ハルコト

ナリ然レトモ定リタル例モニヘズ又ハ何ノユヘトイフコトモニヘズレテ赦ヲ

ハコトモアリ

○北齊ノ時ニ大赦ノ日ハ武庫令金ニテ作りシ雞並ニ鼓ヲ聞闔

門ノ右ニ設ケテ囚徒ヲ闕ノ前ニテツノ鼓ヲウツコトキ聲枷鎖ヲハズ

レテコシユスホチ男詩ニイハレ何且金雞下_ニ夜_ニ即_ニトイフコト事ナリ

○大赦ノ外ニ曲赦トイフコトアリ是ハ天下「同ニ赦セラルニアラス一州

一郡ノ内或ハ一方ヲ赦セラルナリソノ事三國ノ時分ヨリアレトモ名
目ハ晉武帝泰始五年曲赦交趾九真日南五歲刑トイフ
ヨリハ此ニ通考ニ見ハル是ヨリ世々ニソノ事アリテ唐宋ニイタリ
テモソノ通りナリ通考ニ宋ノ制ヲ論シテ曰其恩霽之及有止
於京城西京西路一州之地者則謂之曲赦ト是ナ
○スベテ赦ニ三等アリ大赦常赦曲赦ナリ唐ノ時改元等詔
書ノ文ニ強竊ニ盜私鑄錢外常赦不原者皆大赦ス
アリシカハ大赦トイフ常赦ニヨリテ罪人ヲモユルサレト見ヘク
シカレトモ強竊ニ盜ナドノ大罪ハ大赦ニモユルサレ事ナリ又赦

文ハハヤク處々へ到著スレヤウニセラル故ニ赦書日行ニ百里
トイヘリ恩惠ハヤクオヨブヤウニトノ事ナリ
本朝之制凡赦有大赦有常赦有曲赦
本朝大赦ノコト古ヘ見アタラズ 孝徳天皇大化二年
新宮ヲ造ル因テ天下ニ大赦スゴト日本紀ニ見ハル詔曰宜
遣使者諸國流人及獄中囚一皆放捨ト大赦ノコト始テ
コレニアラハルコレヨリ後赦ノコト處々ニ見ハル
○文武天皇ノ大寶四年五月ニ西樓ノ上ニ慶雲アラハルコレニ
因テスヲ改メテ慶雲元年ト云詔シテ天下ニ大赦同四年元

明天皇即位於太極殿トキ天下ニ大赦スフノ詔曰自慶
 雲四年七月十七日昧爽以前大辟罪以下罪無輕重已
 發覺未發覺咸赦之ト云々コトヨリ後即位改元ノ詔書必
 フノ丈アリコノ外曲赦ノコト國史所クニアリ文ニゲレハアズ

○五代以來宋元明ニ至ルニテ赦ノコトカハルコトニヘズ又コレヲ德音
 ト云イツモ通考ニ詳ナリ

本赦ノコト古ハ書經周禮等ヲスルハ一人一人ノ上ニテ罪ノ疑
 ハレリアレムベキヲナダメユルニテ一國天下ノ罪囚ヲ一同ニ
 スコトナシ秦漢コノカタ世々ニ赦令行ハレテ罪アルモノヲ一同ニ

ガソユレ後世ニナリテモ故事トナリテアラタシ得ズレカレトモ管
 仲コノカタ後漢ノ吳漢王符蜀ノ孔明孟光宋ノ胡致堂
 馬端臨等イツレモ赦ノヨロコビヲイヘリ是ハ大亂ノ後
 ナド寇賊アマムオコリ逐ニセシギシ法禁モナレガタキヤウ
 ナル時分ハ一同ニ赦セラルコトモアルニ治平ノ世ニ罪人シ一
 同ニユスコトハカハツテ善人ノ害ヲナレ或ハアラカシメ赦ラア
 テニシテ惡ヲナスモノ出来テ國家ノ害ヲナスユヘナリ吳
 漢カ光武ニスシテ勿赦ト云王符カ述赦篇ニ赦贖數
 則惡人昌而善人傷矣ト云大司農孟光カ費禕ヲ責

テ赦者偏枯之物ト云イツレモコノワケナリソノ事通鑑
 通考等ノ書ニ具サニアラハ偏枯之物トイフハ惡人
 福ヲ得テ善人ナヤミ煩ヒ因心ノカクイキナルコトヲイヘリ
 トハハ中風ヲヤムモノ、氣血カナハガルガコト

(Faint bleed-through text from the reverse side of the page)

▲私度越度冒度ノ事

○私越冒度トモニ何レモ開ヤブリノ事ナリ私度ト云ハ過所
 ナレニワタシニ開所ヲ通ラシイフ唐律疏議ニ云私度者
 謂無過所後開門越度トハ開所ヲ通ラズシテワキ路へ
 スケテ通ラシイフ疏議ニ云越度者謂開不由門津不由
 濟而度者ト唐律ノ注ニ云不由門為越ト同キコトナリ
 冒度ト云ハ他人ノ名ヲカリテ其キツ手ヲオカシテ通ラシイフ
 疏議ニ云冒他人名請過所而度者ト是ナリ

○唐律云諸私度開者徒一年越度者加一等
不_レ由_レ門_ニ由_レ門_ニ為_レ

越 ○若冒名請過所而度者各徒一年○即將馬越度冒度及私度者各減人二等餘畜又減二等本朝之制凡度開禁私度越度冒度

○法曹至要鈔載衛禁律云私度開者徒一年註云謂三開者攝津長門減一等餘開及又減二等越度者各加一等○又云不應度開而給過所若冒名請過所而度者各徒一年

本朝度開三等法全唐律云法曹至要鈔云夕私度越度ヲ出シテ冒度ヲ舉ゲズ律文ヲ按スルニ冒度ノ科トモコノ中ニ見ヘタリ且今ノヒト人ノレゾコナヒ

○明朝度開ノ法唐律ト大槩相同シ私度スルモノハ杖八十越度スルモノハ杖九十緣邊ノ塞開ヲ越度スルモノハ杖百徒三年冒度スルモノハ杖八十ノ餘大明律ニ詳ナリ本書ヲ考フベシ

○保辜限トイフコトハ唐律並ニ大明會典等ノ内處々ニ見ル是ハ人ヲアヤメタルモノヲアツカル日ギリノコトナリタトハ人ヲアヤメタルモノ即座ニ打コロストキハ殺入者死スルノ法モトヨリ疑ヒナシ或ハ即座ニ死セザレドモ十日廿日ヲ過テ死スルハ手ヲ負ハセタルモノヲ死罪ニスツノ日数十日ヨリ十五日ニテ四段アリキズノ重キホド辜限久シキナリ又日ギリノ内ニテモ他ノコトニテ死スルモノハ手ヲ負ハセタルバカリニテ人ヲ殺スノ罪ニ處シガタキナリ是ニヨリテ保辜限ノ

▲保辜限ノ事

○保辜限トイフコトハ唐律並ニ大明會典等ノ内處々ニ見ル是ハ人ヲアヤメタルモノヲアツカル日ギリノコトナリタトハ人ヲアヤメタルモノ即座ニ打コロストキハ殺入者死スルノ法モトヨリ疑ヒナシ或ハ即座ニ死セザレドモ十日廿日ヲ過テ死スルハ手ヲ負ハセタルモノヲ死罪ニスツノ日数十日ヨリ十五日ニテ四段アリキズノ重キホド辜限久シキナリ又日ギリノ内ニテモ他ノコトニテ死スルモノハ手ヲ負ハセタルバカリニテ人ヲ殺スノ罪ニ處シガタキナリ是ニヨリテ保辜限ノ

法了保トイフ不請合フコトナリ唐律ノ文ヲ下ニス

○唐律鬪訟律曰諸保辜者手足毆傷者二十日以刃及湯火傷人者三十日折跌支體及破骨者五十日又曰限内死者各依殺人論其在限外及雖在限内以他故死者各依本毆傷法注云他故謂別增餘患而死者

本朝之制保辜限

本朝律鬪訟律ノ處以逸シテ存セズ故ニ考フヘキヨトシ然レトモ本朝律ハ全ク唐ノ制ヲ用ヒラル保辜限ノコトモ

亦唐ノ制ト同キナルベシ

○明律保辜限ノ事一タ唐ト同シ別義ナシ故ニ之ヲノズ

○春秋襄公七年鄭伯髡原如會未見諸侯丙戌卒于操公羊傳曰鄭伯髡原何以名傷而反未至乎舍而卒也何休註曰保辜諸侯卒名故於如會名之明如會時為大夫所傷以傷辜死也君親無將見辜者辜内當以弒君論之辜外當以傷君論之解曰漢律有其事然則知古者保辜者亦依漢律律文多依古事故知然也トシカハ保辜ノコト古ヘヨリコ

レアリテ漢ノ律ニ之ヲ用ヒテ唐明ニモミタ遵用セラレト見
ヘタリコノ事他書ニ見ヘズ故ニ公羊ノ文ヲ詳ニラス

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

才技長上ノ事

○才技長上ハ才能技藝アルモノ官職役義ヲ非番ナシ
ニツトムルコトナリ長ト云ハトコニテハト訓シテ常住ノコトナリ上
ト云ハ番ニアガルトナリ直ノ字ト同意ナリ故ニ番旧ヲ直日
上日ト云シカレハ長上ト云ハ非番ナシニ常ニツトムルコト今イ
ハユルヒラツメト云ガゴトシ

○通鑑晉安帝紀ニ云長上段速骨宋赤眉等因衆心
之憚征役遂作亂ト胡三省ノ注ニ云凡衛兵皆更番
送上長上者不番代也唐官制懷化執戟長上歸

德執戰長上皆武散階九品長上之官尚矣又方
 密之通雅云長上長直不番上也又云長上不獨
 將士之名也ト宋ノ咸平中侍讀更直侍講長上ノ事
 フヒクシカレハ長上ノコトムカシヨリニアリテ唐ノ世亦コレヲ以テ稱
 トスルナリ

本朝之制有長上考有分番考

本朝ノムカシ百官考選ノ限スヘテ四科アリ内長上内分
 番外長上外散位ノ四ツナリ内外トモ長上ハ二百四十日
 シ一考トス内外分番百四十日ヲ一考トス考數ト上中

下ニヨリテ位階ヲスルナリ今ノ文多下ニアグ

○選叙令曰凡初位以上長上官遷代皆以六考為
 限義解云謂一品以下也又云凡考選限都有四
 科内長上六考内分番八考外長上十考外散位
 十二考云々又云内外長上同以二百四十日為考
 内外分番同以一百四十日為考云々長上六分番ト
 對シテ常詰ヲ長上ト云交代ヲ分番ト云各内外アリテ考
 ノ數ニ因テ選シテ位階ヲスルナリ事今ニ詳ナリコニシテ考
 ○延喜式式部下ニ長上考番上考ノコトアリ諸司畿内

番上考選文進省トアリ又云長上選番上選亦各有
人数ト長上ヲ番上ニ對シテイフトキハ長上ハ常詰ナリ
上ハ即上ノ分番ナリ

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

▲土功並ニ長功中功短功事

○イニシク國ニ城郭ヲ修覆シ溝川ヲサラスナドスル土功ヲオ
コスコトハ必十月ヨリ是ヲハシム是ハ春夏秋ノ三時ハ耕作
隙ナキ時分ナルニヨリテ冬ニナリ農隙ニ是ヲハジムルナリ春
秋左氏傳莊公二十九年ニ云凡土功能見而畢務戒
事也ト今ノ九月龍星見ハシテ土功ヲハジムルヲイフ杜預注
云三務始畢戒民以土功事ト又詩經邶風ニ定之方中
作于楚宮ト夏正十月定ト云星ノ南ニ中スル時カヨリ土
功ヲ始ムルコトヲ賦ヨリニノ星ノアラルヨリ宮室ヲ作ルニ因テ

營室星ト云二十八宿ノ室星ナリイツレモ三代ノ法ニテ秦漢コノカタハ時節ニ拘ハルコトニヘズ

○唐ノ時功作ノコト一年中ノ日ノ長短ヨリテ是ヲ三段ニワカセ唐書百官志云凡工匠四月至七月為長功二月三月八月九月為中功十月至正月為短功雇者日為絹三尺トアリ

唐功作三

長功 四月至七月

中功 二月三月八月九月

等圖

短功 十月至正月

本朝之制 凡計功程有長功中功短功

本朝功程ノ制亦唐ヨリ四五六七月ノ四ヶ月日ナガキ時分シ長功ト云布一常ニテ四功ヲ得一常ト一丈三尺ナリシカレハ一人前ニ三尺二寸五分ナリ二三八九ノ四ヶ月ヲ中功ト云一常ニテ五功ヲ得一入前ニ三尺六寸ナリ十十一十二正月ヲ短功ト云一常ニテ六功ヲ得一入前ニ三尺六分尺ノ一ナリソノコトハ營繕令ニテラハル

本朝功程圖

長功

同三尺二寸五分

中功

同二尺六寸

短功

同二尺一寸六分餘

制度通卷十三畢

寬政丙辰歲六月十九日
美野書畢

制度通跋

大抵經世之書，唐杜氏有通典，宋馬氏有文獻通考，逮明世章氏著圖書編，丘氏著衍義補，是皆講索研究歷代之制，度沿革得失，詳明繁瑣，明備矣。然其書浩博，非旦夕之可諳，得彼失此，讀者多不得津要，加之本朝之於中國，壤不相接，風不相同，然其所因襲，全在唐制。

則經生亦不可不講求也。吾先子有
概乎是四十五之間，以國字草一書
名曰制度通詳，中兼古今之源委，施及
本朝之古制，次而至宋元明，雖本通典
通考等，然博覽群籍，事有明據，考旁通
考，索體制簡當，及便於誥博之典，草既
成矣。又讀書涉獵之次，隨得隨改，故其
傳寫者條款多少，亦不復一樣。及晚年

從學之士日多，時新寫訂正事繁，業忙
蓋有暇精校者矣。傳播日夥，訛乖
措不勝其多，殆至有錯其義者。傳寫編
海內，誤落滿全書。善韶自夙年款校，而
刊之天明丁未之歲，始業遭戊申之災，
荏苒數年不果。癸丑之春，再始業，就原
稿一一照對，又別有草者，或片紙斷簡，
屬其稿者，櫛比讎對，補訂去就，一從先

意體統繁然遂成全書甲寅之夏四月
校畢手自繕寫與同志謀以授剞劂今
茲刻成畧償素志凡四方考此書者就
此刻為定本其校訂之掛漏大方之是
正為幸矣

寬政八年丙辰冬十一月伊藤善韶謹撰



每部有圖章記號

無是者皆屬贗本



寬政丁巳春全刻

施政堂藏版

二条通柳馬場西八町

田中市兵衛

寺町通二条下町

林 權兵衛

二条通柳馬場東八町

京都

發行

林 伊兵衛

二条通麩屋町西八町

吉田即右衛門

下谷池之端仲町

東都賣弘所 須原屋伊八

